

香取遺産

Vol.61

「阿玉台貝塚」 阿玉台式土器の 標式遺跡



▲石碑



▲阿玉台貝塚近景(散策路と梅林)

市の北部を流れる利根川流域の台地上には、数多くの貝塚が残されています。明治時代以降、多くの研究者が当地を訪れて発掘調査を行い、その成果を学界で発表したことから、全国的に著名な貝塚も少なくありません。

小見川南小学校の西側にある阿玉台貝塚は、市内で最も著名な貝塚のひとつで、縄文時代中期（4～5千年前）ころのもので、阿玉台区の共同墓地となっている台地平坦部と、それを取り囲む台地斜面からなり、斜面部には5カ所の貝層が確認されています。台地平坦部に人々が居住し、周囲の斜面に貝殻を捨てたのでしよう。

記録に残る最初の発掘調査は、明治27年に東京帝国

大学（現在の東京大学）によって行われた調査です。調査では、口縁部に独特の装飾が施され、胎土に雲母を含む土器が目玉されました。それ以降、この土器は阿玉台式土器と呼ばれ、本貝塚はその標式遺跡として広く知られてきました。

昭和32年には、利根川下流域の貝塚調査を精力的に行っていた早稲田大学の西村正衛教授によって、本格的な調査が実施されました。ここでは、阿玉台式土器が層的に発掘されたことにより、阿玉台式土器の変遷過程を5段階に細分するという研究成果が発表されました。この成果は今でも、阿玉台式土器研究の基礎となっています。

阿玉台式土器は、前に述べた特徴のほかに、粘土紐

を带状に貼り付けた文様や、幅の狭い板状工具や半分に割った篠竹の先端を連続して押し付けた文様が特徴です。縄文時代中期の初めごろに、東関東地方を中心に分布しています。

県内には、東京湾沿岸地域にも、加曾利貝塚などの有名な貝塚がたくさんあります。しかし、都市部にある貝塚は周辺の開発が進み、貝塚だけが保存されているのが大半です。それに対し、本市に残る貝塚は、周辺の自然環境を含めて良好な状態で現在まで保たれています。

昭和43年、本貝塚は国の史跡に指定され、現在は地元の方々によって保存・管理が行われています。

問い合わせ
生涯学習課 ☎(50)1224